

OLIVE SQUARE

巻頭挨拶

松楠会を どう育て… 後輩に 引き継ぐのか



松楠会会長
 岩島 卓男

元会長宮崎正夫氏は、価値観が多様化、運営や活動の難しさを果敢に乗り越えて…。前会長橋本正範氏は、卒業生・会員減、予算厳しい中であっても次世代に向け事業の改善、精選・重点化を…と職責を果たされておりました。

さて、5月24日（土）に支部代表者等による松楠会理事会並びに同基金理事会を、また5月31日（土）には90名近くの出席者で松楠会評議員会（総会）を開催。今後の松楠会のあり方、運営等について積極的なご意見をいただきました。松楠会活動アンケート調査（支部長、事務局長対象）についても報告し、ご意見をいただきました。

喫緊の課題は、松楠会の活動が熟年OBに偏って、若年・現役会員の参加が大変少ないことへの危惧です。改善の基本的な姿勢は、いろいろ問題はあるでしょうが支部総会と支部活動を分けて考えると、若い会員、現役会員を主役にした活動も設けることが可能になるのではないのでしょうか。また、グループや隔年開催といった視点も大切ではないのでしょうか。

支部運営費の多くは、本部からの支部活動費が占め、卒業生の終身会費として納められたもので賄われています。若年、現役会員に向けた活動の実施が不可欠な事情は、ここにもあるわけです。

※ 終身会費扱いは、昭和40年3月卒業以降の会員です。

「松楠会報」は、会員意識を高めるベースです。この点が気がかりな支部…、また、役員の若返りを進める必要も…等々の状況もあるのではないのでしょうか。

■ 今年はいじめて、教育学部教育実践総合センターと松楠会の共催で…「研究交流・公開講演会」を8月9日（土）13時から開催します。17時30分からは懇親会も。大学と松楠会の交流、学生にも松楠会への意識を深めてほしいと願う企画です。

■ 香川大学同窓会連合会主催「第4回ホームカミングデー」は、大学祭最終日、11月2日（日）13時～18時に開催します。
 お誘い合って、ぜひご参加ください。

松楠会の熟成を期して後輩に引き継ぐことが求められています。過去を懐かしみ、明日を想う源、激変する母校を裏から支える同窓の仲間づくり…今後とも一層のご支援ご協力をお願いします。

香川大学教育学部・教育学研究科改革とその現状について

香川大学教育学部長・松楠会顧問 山神 眞一



松楠会の皆様におかれましては、日ごろより母校へのご支援とご指導を賜り、誠にありがとうございます。今回は、松楠会会報第51号の発刊に際し、母校の改革の現状についてご報告させていただきます。

香川大学教育学部・教育学研究科は、地域密着型を目指す大学として、地域の教員養成機能の中心的役割を担うとともに、香川県における教育研究や社会貢献活動等を通じて我が国の教育の発展・向上に寄与する実践型教員養成機能への質的転換を図る改革に取り組んでいます。以下の内容はその改革の指針です。

(1) 教育の重点方針：

「発達支援」の視点を中核に据えた実践的指導力のある教員養成の人材育成を目指す。発達支援の視点とは、子どもの発達と発達障害ならびに人の生涯発達に関する理解を基盤とした教育支援や地域支援を意味する。

(2) 小学校教員養成の強化：

学校教育教員養成課程は、小学校教育コース及び中学校教育コースを新設し、教科教育における指導力と学級経営力を有する、発達支援に理解のある小学校教育教員養成の強化を図ります。

(3) 附属教職支援開発センター（仮称）への改組：

附属教育実践総合センターを改組し、実地教育と教職支援の充実を目指して、香川県教育委員会並びに香川県教育センターとの一層の緊密な連携を強化し、養成と研修の一体化を図る。

(4) 教育学研究科の再編

（高度教職実践専攻「教職大学院」の新設）：

平成28年度を目途に現在の研究科の教科教育専攻をコースとして大括り化するとともに、高度教職実践専攻（教職大学院）及び学校支援教育専攻（臨床心理学コース・日本語教育コース）を新設する。

(5) 人間発達環境課程（新課程）の募集停止も視野に：

文部科学省のミッションの再定義により、将来的には、人間発達環境課程の定員の募集停止も視野に組織の充実を検討する。

以上の指針に沿って教育学部一丸となって改革を推進しております。松楠会の皆様には、新しい教育学部・教育学研究科に対してさらなるご支援とご指導をいただければ有難いと存じます。

募集人員

課程・コース		入学定員(人)
学校教育教員養成課程	幼児教育コース	10
	小学校教育コース	105
	中学校教育コース	45
	小 計	160
人間発達環境課程		40
計		200

小学校教育コースには生活・総合領域、英語領域が新しく設けられます。

新しい教育学部でより充実した教育と学生生活の支援を



1年次には、発達支援論（新設）や特別支援教育基礎論が必修に。

4年次には、学級経営論も必修に。

*平成25年度からは、4年次に4年間の総まとめの授業科目として、教職実践演習が全国的に全面实施されました。

母校教員の異動

退職

平成26年 3月31日	教授（定年） 田村 道美	H26.4.1 付け名誉教授
	教授 瀬戸 郁子	
	准教授 前盛ひとみ	
	准教授（転出）大西えい子	高松市立庵治小学校教頭へ
平成26年 4月1日	教授（配置換え）上杉 正幸	人文社会科学系（大学評価室）教授

昇任

平成26年 4月1日	准教授 小森 博文
---------------	-----------

採用

平成26年 4月1日	准教授 高木 愛	三豊市立和光中学校教諭より（香川県の人事交流）
	特命教授 池田 清史	
	特命准教授 貞廣美津子	

オリーブ・スクエア

OLIVE SQUARE

2014年5月オープン



学習ラウンジ



イングリッシュカフェ



学習環境も
続々充実！



図書館 グループ学習スペース
「ラーニングcommons」



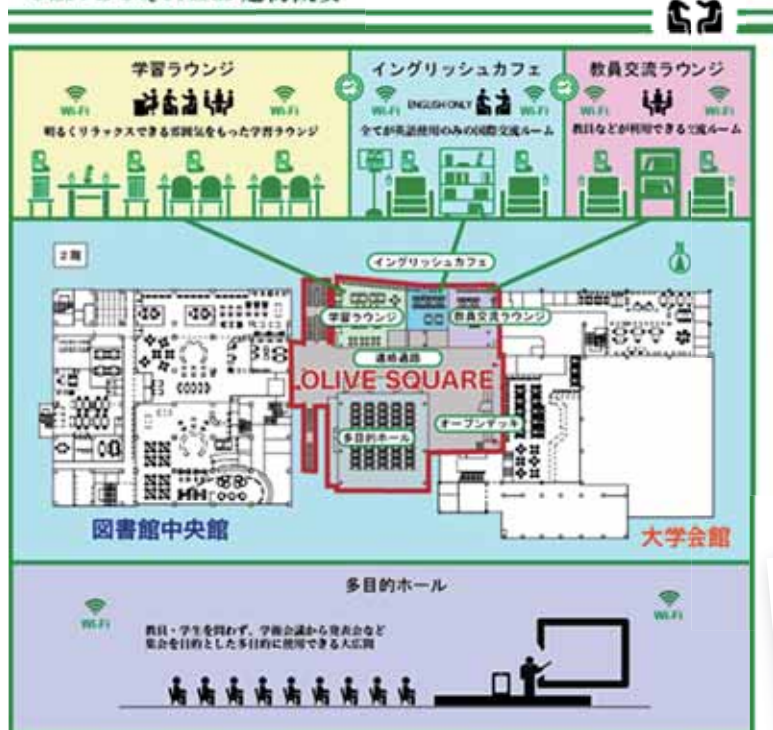
図書館 個別学習ブース

図書館もリニユーアル！



※写真協力：松下幸司准教授、広報センター

OLIVE SQUARE 建物概要



OLIVE SQUARE 各室のご案内

室名	学習ラウンジ	イングリッシュカフェ	教員交流ラウンジ	多目的ホール	● 学習ラウンジに専用カウンターを設けております。
席数	88席	20席	33席	200席	● 多目的ホールに関する
最大収容可能人数	約100名	約30名	約50名	約200名	ことは学生生活支援グループ（大学会館2階）にお問い合わせ下さい。
利用対象	学生 教職員等	学生 教職員	教職員	学生 教職員等	

併任

平成25年
10月1日
山神 眞一 教育学部長（継続）
時岡 晴美 教育学部副学部長 H26.3.31 付け併任解除
毛利 猛 教育学部副学部長（継続）
岡田 知也 教育学部副学部長（継続） H26.3.31 付け併任解除
加野 芳正 教育研究評議会評議員（継続）

平成26年
4月1日
有馬 道久 教育学部副学部長
平 篤志 教育学部副学部長
櫻井 佳樹 附属高松中学校長
伊藤 裕康 附属坂出中学校長（継続）

称号付与

平成26年
4月1日
附属教育実践総合センター
客員教授（継続） 松井 保
附属教育実践総合センター
客員教授（新規） 藤本 泰雄
附属教育実践総合センター
客員教授（新規） 山内 秀則

訃報

稲富健一郎（名誉教授） 平成25年7月9日 ご逝去
笹本 正樹（名誉教授） 平成25年12月3日 ご逝去
井上 タツ（名誉教授） 平成26年1月20日 ご逝去
謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

退職のご挨拶

田村 道美



松楠会の会員の皆様方におかれましては、益々ご清祥のこととお慶び申し上げます。

さて、わたくしは本年3月末日をもって教育学部を退職いたしました。在職中は、皆様方より多大のご支援・ご協力をいただき、まことにありがとうございました。

わたくしが本学部に着任しましたのが1974年4月でしたから、ちょうど40年在職したことになります。その40年の間にはいろいろな思い出がありますが、経てみれば「あっという間」で、Time flies. という英語の簡潔な表現に改めて感じ入っている次第です。

退職してから2ヶ月が過ぎようとしております。英語教育講座の教員は退職後には非常勤講師として共通教育の英語を2コマ前後担当するのが慣例となっております。しかしわたくしの場合は、定員不補充で後任が採れないことや、英語教育講座に英文学を担当できる教員がいないという事情から、大学院や学部の授業も担当することになり、週に3日香川大学へ教へに行っております。また、3人の4年生の卒論の相談にのったりもしていますので、退職したという気があまりいたしません。

退職後は、し残した研究の継続とこれまで読みたくても読めなかった本を読むことと外国旅行を楽しむことが目標ですが、研究室から持ち帰った本や資料の整理等に追われて、まだどれ一つ実現しておりません。今年の夏休みが終わるまでには、「漱石とThe Lotus Library (4) —The Nabobの書き込みを中心に—」を書き上げ、Anthony TrollopeのBarchester Towersを読み終え、フランスとイタリアへ行っているいろいろな料理を楽しみたいと思っています。

今一番の頭痛の種は蔵書をどうするかということです。家の書斎と家内の実家の納屋に、合わせて1万5千冊ほどの本があります。「蔵書一代」という言葉がありますが、わたくしが死ねば蔵書はごみとして処分される可能性大です。大学やその他の図書館もパンク寸前で、寄贈という方法も難しいようです。古本屋に売っても、二束三文に買いたたかれるのは目に見えています。インターネットのオークションを利用する手もありますが、本の状態を説明したり、写真を撮ったりと手間がかかります。結局これまでやってきたように、貴重な蔵書に関する論文や本を執筆することで、蔵書自体は散逸しても、蔵書の持つ価値は後世に残るように努めることが一番かなと考えております。

最後になりましたが、松楠会の皆様方のご健勝とご多幸を心よりお祈り申し上げます。

長い間お世話になりました

上杉 正幸



本年3月に定年退職となりました。松楠会のみなさまにはこれまでいろいろとお世話になり、ありがとうございました。

いざ定年を迎えると、毎年定年を迎えた諸先輩方が「あっという間だった」と言われていたことを実感として感じています。1975（昭和50）年に教育学部の助手として採用されて今日まで39年、まさに「あっという間」でしたが、その間に何があったのか、自分が何をしたのかを振り返ってみると、長かったようにも感じます。そして妻から、病気もせず、辞めさせられるようなこともせず、無事に定年を迎えるようにと厳命されていたので、安堵する気持ちもあります。

数年前から、定年になったら何をしようかと考えてきましたが、最近では、だんだんと先のことを計画的に考えることが億劫になり、その時になってから湧き上がる自然な気持ちに任せようという心境になっていました。

そして、いよいよ定年という矢先に、学長から副学長職の延長を要請され、4月からは教員の立場を離れて大学運営に携わっています。この1年間は、来年4月からの自由な生活を楽しみにしながら、これまでお世話になった香川大学への恩返しの気持ちで取り組みたいと思っています。

少子化と運営費交付金の漸減という時代の大きな流れの中で、教育学部も大胆な改革を求められています。同窓会の皆さんと一体となってこの難局を乗り越え、香川の教員養成の中核を担ってきた歴史を引き継ぎながら、更に発展していただきたいと願っています。

長い間、お世話になりました。

温かい居場所、松楠会に感謝！

大西 えい子



交流人事教員として、平成22年度から平成25年度までの4年間、香川大学に勤務する機会をいただき、心から感謝致しております。母校の今が分かり、後輩たちの様子も分かり、母校が今まで以上に好きになりました。教員目指して前向きに頑張る後輩たちの姿を見ると、心から応援したくなりました。

また、松楠会の学内理事として総会などに参加させていただき、すばらしい諸先輩方に出会えたことは、私にとって大きな力になりました。松楠会の先輩方に温かく包んでいただいていることが分かり、大学における任務に対する気持ちも一層引き締まりました。先輩、私、そして後輩・・・後輩である今の学生さんたちをしっかりと育てなければ・・・という意識が高まりました。これぞ「松楠会パワー」です。温かい居場所であるからこそ、そこに居ると前向きなやる気が湧いてきました。

4月より高松市立庵治小学校に教頭として勤務しております。松楠会学内理事として、4年間木田支部総会に出席させていただいたことにご縁を感じる勤務地です。五剣山の綺麗な横顔を眺め、たくさんの方の庵治石を並べている石屋さんの横を通り、船かくしから見える美しい瀬戸内海の景色に感動しながら、毎朝明るい気持ちで通っております。素直な子どもたち、素敵な先生方とともに、庵治小学校でも「松楠会パワー」で頑張っていく所存です。今後ともどうぞよろしくお願い致します。

最後になりましたが、松楠会の皆様のご健勝とご多幸を心よりお祈り申し上げます。



高松支部 — takamatsu



きっかけ

先日、玉藻城の堀の舟に初めて乗りました。見る位置がいつもと少し異なり、新鮮な感じがしました。特に天守閣の石垣に触れ、その大きさと、細工の巧みに驚かされました。城内中学校に勤めていたときは、毎日眺めていたのですが、近くから見ての新しい発見でした。

そのときの船頭さんの名所案内の中に、弓流しや駒立岩の話があり、平家物語の授業を思い出しました。「やしま」が「八島」と表記されており、屋島の形からいうと、ずいぶん間延びした「八」の字だなと変なことを考えたことです。ところが、後年、男木中学校に赴任し、沖からは屋島の長崎の鼻がまさに八の字に見えることに気づかされたのです。

松楠会の行事に参加してみませんか。年代の異なる同窓生の集まりですから、何年か前の、あるいは何年か後のあなたに会えるかもしれません。新しい展開や視点を変えるきっかけになることがあるかもしれません。

参加をお待ちしております。

山下 祐一（教育・昭和43年卒）

丸亀支部 — marugame



平成25年度の丸亀支部総会は、8月17日（土）13時より、西山徹副会長を来賓に迎え、丸亀市生涯学習センターで開催しました。

米寿の会員に記念品贈呈、24年度の事業報告、決算報告、監査報告、25年度の事業計画・予算案審議と、とどこおりなく進行了。総会のあとは、「うどんのはなし」と題して、香川県産業技術センター発酵食品研究所 松原保仁 主任研究員から講話をいただきました。讃岐うどんの食感、土三寒六の塩加減・菊ねり・足踏み・生地をのばす讃岐独特のすかし打ちによって

生まれること。この工程で小麦粉のたんぱく質、グリアジン・グルテニンから弾力と粘着力をもつグルテンが形成され、繊維状・網目状になるためとの話でした。会員皆、「なるほど」と納得しました。新しい小麦品種「さぬきの夢2009」の開発による讃岐うどんの将来も、夢の広がる話でした。続いて行われた懇親会も、同期生、先輩・後輩の別なく、思い出話を語って、過ごしました。楽しい半日でした。

前田 伸雄（学芸・昭和40年卒）

坂出支部 — sakaide



松楠会坂出支部の平成25年度の会員は、現職146名、OB104名の計250名です。21のOB地区と22の学校地区による構成で、事務局を附属幼稚園に置いています。

平成25年度は、5月22日（水）、附属幼稚園において役員会を行い、7月7日（日）には坂出支部評議員会を開きました。

坂出支部総会は、9月1日（日）に開催する予定でしたが、台風接近のために延期し、11月10日（日）に開催いたしました。ご来賓として、本部より小比賀俊彦松楠会副会長様、田中栄美子学内理事様のご臨席をいただきました。総会においては、平成24年度事業報告・会計報告、平成25年度事業計画案・予算案審議、役員改選等が行われました。

総会に先立ち、教育視察を行いました。今年度は、金山けいの里を巡りました。けいの里はサヌカイトの産地であり、発掘場やサヌカイト楽器の展示場などがあります。案内していただいたのは前田氏で、ご本人自ら石の研究をされたり、つくった楽器で、世界遺産であるイギリスのストーンヘンジなど海外でも演奏の機会をもたれたりしています。

里には、サヌカイト（カンカン石）が山道にも普通にあり、拾ってたたくと美しい音が響きます。割れている石は尖っており、古代人がナイフや石斧に使ったことが容易に想像できるものでした。展示場には、いろいろな美しい形の楽器があり、音色も様々です。これらのサヌカイト楽器は、前田氏の御尊父様が学術的な助言を受けて誕生させたものだとい、その思いの深さとすばらしさに感銘を受けました。同時に、わが坂出市に、このような神秘的ですばらしい文化や遺産があるのだと、嬉しく誇らしく



感じさせてくれました。

その後は、坂出プラザホテルで懇親会を行いました。近況を語り合いながら、終始和やかなひと時をもつことができました。今後とも、支部会員の皆様や本部の皆様の意見を賜り、充実した運営を図りたいと考えております。

佐藤 美芽（教育・昭和58年卒・坂出市立松山小学校）

大川支部 ————— okawa



平成25年度の総会は、8月25日（日）に、さぬき市のクワパーク津田にて、岩島卓男会長様、植田和也理事様をご来賓としてお招きして盛大に行われました。総会では、白井支部長が開会あいさつの中で、今年度入会された新会員の方を紹介し、参加者全員が拍手で歓迎しました。続いて、ご来賓の岩島会長様からご挨拶をいただきました。

その後、平成24年度の事業報告、会計報告、平成25年度の事業計画、予算案等について協議し、最後に役員改選を行いました。

総会后、理事の香川大学教育学部准教授 植田和也先生から「子どもの心を育む」という演題でご講演いただきました。ご講演では、現在の子どもの取り巻く様々な状況や問題を踏まえ、子どもたちがよりよい人間関係を築くためには、大人が手本となること、できることを見つけほめることの大切さをご指導いただきました。

続いて、懇親会に移り、OB会員の方々と現職会員が、楽しく和やかなひとときをもつことができました。

多田 敬三（教育・昭和55年卒・さぬき市立志度小学校）

小豆支部 ————— syozu

平成25年度松楠会小豆支部総会は、8月20日（火）に土庄町にある小豆島グランドホテル水明で開催されました。8名の会員が出席し松楠会本部から森美智子副会長、小豆支部担当の大西えい子理事のご出席を賜りました。総会では小豆支部規約の改正と役員改選が行われ支部長に新しく川井千代子先生が選出されました。

総会に引き続いて懇親会が開かれました。来賓の森副会長のご挨拶、大西理事の乾杯とつづき、会員みなさまの現状報告や県下の情勢、思い出話などで終始和やかなひと時をもつことができました。

小豆支部の平成25年度の会員は現職73名、OB107名の計180名です。今後とも、現職会員との連携を深め、先輩の先生方や本部の皆様のご指導を賜りながら、会

員の研修、懇親の場として充実した運営をしていきたいと考えています。

三木 吉昭（学芸・昭和39年卒）

木田支部 ————— kita



平成25年度の木田支部の主な活動は、6月の役員会の実施と8月の総会・懇親会並びに教育講演会の開催です。8月22日の総会はトレスタ白山で開催し、ご来賓として松楠会本部より西山徹副会長様、大西えい子理事様に臨席いただき、ご挨拶をいただくとともに、ご指導やご助言をいただきました。また、総会後の懇親会では昼食をとりながら、久々に顔を合わせた会員同士で近況を報告したり、昔の思い出話に花を咲かせたりして、楽しい一時を過ごすことができました。午後からは会場を三木町文化交流プラザに移し、木田教育会・木田地区医師会との共催で教育講演会を開催しました。講師は愛媛大学名誉教授の山本万喜雄先生をお招きして、「人間賛歌の教育をめざして」と題してのご講演をいただきました。子どもたちを大切に、やさしさにあふれた実践を紹介してくださり、大変有意義なものとなりました。ユーモアあふれる楽しい語り口に引き込まれ、時間があっという間に過ぎました。教育講演会には現職の幼稚園・小・中学校の教職員にも声をかけ、百名を越す参加者がありました。今後も会員の親睦を深めつつも、教育課題等についてお互いに学ぶ機会になればと思っています。

山地 茂之（教育・昭和60年卒・三木町立平井小学校）

香川支部 ————— kagawa



香川支部の平成25年度の会員は、現職会員78名、OB会員54名、計132名です。会員相互の親睦を図り、本部とも連携しながら地域の教育振興に寄与することを目的として活動しています。

平成25年度は、6月28日（金）に理事・評議員会、8月3日（土）に支部総会を開催いたしました。支部総



会には、ご来賓として、本部より大山正子松楠会副会長様のご臨席をいただきました。総会終了後、引き続き香川大学教育学部教授 加藤みゆき先生から「発酵米麺の製造方法とその特徴」という演題で講演していただきました。講演の内容は、カンボジアの発酵米麺の製造方法についての紹介と伝統的な食文化を保存する活動の意義についてのお話でしたが、世界の多様な食文化とその智慧に感心するとともに、生活環境の変化によって失われていく食文化を後世に受け継いでいくことの大切さを改めて感じさせられました。

妹尾 長（学芸・昭和34年卒）

綾歌支部 ayauta



今回は25年度の活動の1面を以下報告する。

①支部の事務局が香川大OB宅にあるのは県外支部と県内では3地区のみで、県内7地区は現職が担当。②25年度に支部の会則制定に取り組み、各支部の会則資料を確認すると、4支部のものが参考資料として活用できた。③各支部の事業並びに活動、例えば、会員全体や現職の方への対応策としての会報発行、総会の持ち方などの情報も皆無で横の繋がりの無さを痛感した。当然、支部活動の活性化のための新規事業導入にも盛り上がりも得られなかった。

④綾歌支部は県下での市町合併の狭間で、現教育事務所が東西2事務所にまたがる。そこに現職の会員の把握に壁が生じる。よって、各校の松楠会員数の把握を各校窓口担当者の確立に取り組み、直接の窓口パイプ役のネット化が25年度に完成した。⑤私の現職時代に、先輩が支部結成に尽力されて、現在がある。これからをどうシステム化するかで、25年度総会で会則制定と同時に、役員構成の大幅なる変更をした。旧6町への割り振りとは、順送りのシステム化で、26年度がその初年度となり、始動することとなる。

岡内 尊重（学芸・昭和36年卒）

仲善支部 tyuzen

年2回！ 歌って踊って 確かめ合って

ニコニコした顔、顔、顔。参加者の表情は満足感にあふれています。友と語り合って得た高揚感が今からの自分の大きなエネルギーになっています。

私たちの集会は、みんなの創意によって「仲善タイプ」が出来ています。

①8月中旬開催の総会、②正月初旬の新年祝宴のタイプです。総会での香川孝典会員の指導による竹工作

体験、新年祝宴での大先輩の舞踊や詩吟が恒例になっています。

また、仲善支部で創作した「松楠同窓生の歌」の合唱で仲間意識をさらに盛り上げています。

課題もいくらか見えてきています。種々の要因で会員減少の傾向が見られることです。係が協力し合い、集会参加者も大勢になるように努力しています。現職会員にも働きかけ絆を強めるようにしています。

森川 政子（学芸・昭和40年卒）



三観支部 sankan



三観支部では、2年に1度、総会並びに記念講演会併せて懇親会を開催しています。今回の総会は、去る平成25年12月18日、本部から岩島卓男会長様、森美智子副会長様をお迎えし、37名の会員が参加しての開催となりました。

総会では、平成24・25年度の事業報告や決算報告等の審議の後、役員改選があり、高橋正好支部長が退任され、岩倉道夫氏が新支部長に選任されました。また、長年、事務所をおいていた観音寺市立観音寺南小学校の廃校に伴い、新設された観音寺市立観音寺小学校に変更する等、役員をはじめ執行体制が代わる年となりました。

総会の後、講演会では、みとよ万葉の会代表の野口雅澄先生から「観音寺市・三豊市の文学碑」と題して講演がありました。万葉集、源氏物語等の古典文学をはじめ地元ゆかりの深い著名俳人の句碑の紹介等、これまで積み重ねてこられた調査研究の一端をご紹介いただきました。また、地元小・中・高等学校の「校訓」も紹介され、元校長の会員も多く、興味深く講演に聞き入っていました。

三谷 光雄（教育・昭和49年卒）

神奈川支部 kanagawa

神奈川県支部で、住所がわかっている方は、約40名ほどです。この4～5年は新会員はいません。

また現職の方でも結婚や他県への転居に伴い転居先



不明になる方もいます。ですから、会員数減少の一方で、高齢化まっしぐらです。

10年くらい前は、新会員を迎えて秋の鎌倉散策を行っていました。

しかし現在は、先輩たちが残してくれた積立金を郵送料にして、大学からの「会報」を送るだけの状態となっています。

宇條 建郎（教育・昭和44年卒）

兵庫支部 ————— hyogo



兵庫支部紫雲会は、年1回の定期総会を開催し続けながら、ここ数年は若い会員を対象にした懇親会も開催しています。

25年度の総会は11名の参加者のもと、和気藹々とした雰囲気の中、懇親を深めることができました。参加者一人一人が近況を話していく中で、香川大学時代の思い出話にも花が咲き、「そうだったよね。」「懐かしいね。」「といった言葉が聞かれました。また、香川大学からは佐藤先生にもご臨席を賜り、大学の最近の様子を含めた貴重なお話をいただきました。佐藤先生を交えた懇親会は、香川大学同窓生の絆を深める場となりました。

私自身はなかなか運営のお世話を手伝うことができず、申し訳なく思っています。でも、池内支部長や木岡理事をはじめ、先輩の方々が労を惜しまず会の運営相談や発送作業を行ってくれるおかげで、楽しい会に参加出来ているので非常に感謝しています。

最近では若手懇親会も企画され、昨年度は8名の参加のもと、仕事上の悩みや将来に向けての希望等を話題に非常に有意義な時間を過ごすことができたと思っています。世代を超えた交流も目指している兵庫支部の素晴らしい取り組みではないかと感じています。

26年度の総会は、6月21日（土）に初めて姫路で開催されます。世界遺産の姫路城や「軍師官兵衛」で今話題の姫路の会場を、姫路在住の先輩の方にお世話をしていただきました。神戸以外での総会の開催は、兵庫支部の新たな歴史となり、非常にうれしく思っています。今後多くの方との出会いを大切にしていきながら、少しでもお手伝いできたらと考えています。



兵庫支部（紫雲会）役員

支部長	池内 幹夫（昭和46年卒）	
理事	木岡 正雄（昭和48年卒）	
評議員	大坪恵美子（昭和49年卒）	宮崎 謙（昭和50年卒）
支部委員	大坪 和洋（昭和50年卒）	須加多由雄（昭和55年卒）
	宮本早夕里（昭和61年卒）	山川 寿夫（昭和62年卒）
	渡辺 一功（昭和63年卒）	松下ひろみ（平成15年卒）
	松下 明申（平成16年卒）	
顧問	細瀬 誠浩（昭和43年卒）	

山川 寿夫（教育・昭和62年卒・神戸市教育委員会）

岡山支部 ————— okayama

20年ほど前の夏休み、一本の電話がかかってきた。今は亡き小林一征先生からの電話だった。「松楠会の岡山支部を発足させようとしている。名簿から無作為に選んで、君が世話役の一人になったよ。」という連絡。戸惑いと驚き。とりあえず指定された日時に会場に向かう。それが松楠会岡山支部の始まりだった。それから20年、せ



っかく選んでいただいたのに準備会にも参加したりしなかったり。役員会へも総会へも細々の出席。大変申し訳なく思う。しかし出席したときには、今は亡き佐藤大先輩に手品を見せていただいたり小林先生の温かなお話を聞かせていただいたり等々、改めて同じ大学で学んだという不思議な縁を感じ、同朋意識が高まる。

平成25年度支部総会に出席した。本部の佐藤明宏先生ご出席の下、講演会では画家の先生より名画鑑賞についてのあれこれを拝聴し、懇親会では先輩より尺八演奏のサプライズが飛び出すなど、濃密な時間は瞬く間に過ぎていった。

現役時代には大学時代の友達とも疎遠になっていたが、最近になって扇町に下宿（なんと懐かしい響きだろう）していた友達と「扇町会」と称して年に一回、旅行をしている。温泉旅館に泊まった夜は学生時代のように夜を徹して話し当時の話で盛り上がる。

今は現役で忙しい人たちも退職したら学生時代を思い出し懐かしむことだろう。そのためにも松楠会の存在は大きいと感じる。今までの不義理を払拭すべく松楠会の存在をアピールし、退職してからではなく現職のときから交流を深める場になればと願っている。

坂下 恵利（教育・昭和49年卒）

研究交流会・公開講演会（附属教育実践総合センターと松楠会との共催）

日時●平成26年8月9日（土）13：00～17：00

場所●香川大学幸町キャンパス オリース・スクエア

このたびは卒業生や修了生を交えた研究交流会・第1回公開講演会を「香川大学教育学部と香川県の教育」をテーマに附属教育実践総合センターと松楠会との共催として開催します。本年は瀬戸内海国立公園指定80周年、四国霊場開創1200年の記念すべき年です。シンポジウム1「香川の魅力を歴史から」では、郷土の魅力を再認識できる場となるように、シンポジウム2では、今後の教育改革の話題でもある「道徳の教科化」に関して若年教員の道徳授業力向上の観点から検討できる場となるように考えております。無料で参加できますので、多数ご参加くださいますよう、ご案内申し上げます。

- 12：30～ 受付
- 13：15～ はじめまして交流（出会いのあいさつ）
- 13：30～15：00 シンポジウム

シンポジウム1「香川の魅力を歴史から」

【コーディネータ】

【シンポジスト】

前高松市立紫雲中学校 校長

香川県教育委員会事務局義務教育課 主任指導主事

坂出市立坂出中学校 校長

高松市立高松第一中学校 教諭

シンポジウム2「道徳の教科化をめぐる～若年教員の道徳授業力向上～」

【コーディネータ】

【シンポジスト】

香川大学教育学部 教授

高松市立屋島西小学校 教頭

高松市立栗林小学校 教諭

香川大学教育学部 准教授

- 15：30～16：45 講演 演題「すばらしき郷土香川の魅力と教育」

講師 前香川県教育委員会教育長 細松 英正 氏

日程

- 申込方法 参加ご希望の方は、メール又は電話かホームページに掲載の参加申し込み票をFAXにてお送りください。
- FAX送付先 香川大学教育学部附属教育実践総合センター 〒760-8522 高松市幸町1-1 FAX 087-832-1689
- 電話申し込み 香川大学教育学部附属教育実践総合センター TEL 087-832-1683
- E-mail jcen@ed.kagawa-u.ac.jp 松楠会のHPにも掲載しています。

＊17：30～生協で香川大学教育学部と香川県の教育を語る会（松楠会の同窓会を兼ねて）を行います。

平成25年度松楠会支援事業

竹とんぼ「とんだ 飛んだ」天まで高く

森江 照（学芸・昭和33年卒）

●学期毎に3つの小学校で

25年度は松楠会支援事業として3小学校で「竹とんぼ教室」を開いた。

1学期は仲南小学校で行い、2学期は善通寺南部小学校、3学期は筆岡小学校で実施した。どの学校も第4学年の児童たちで、総合学習の時間を活用した。「面白かった、よかった」という児童の好評にやりがいを感じた。

講師には、松楠会会員で竹細工に秀でた才能を持ち、多方面で活躍している香川孝典氏になった。補助として同会員、森江照氏と香川佳子氏が当たった。

●初体験 注意深く

児童の作業は、羽作りとそれを支える心棒作りである。羽・心棒の素材は講師が用意してある。児童たちは夫々を丁寧に仕上げて組み立てるのである。①竹を削るために小刀（肥後守）を使う、②竹の羽を曲げるためにアルコールランプを使う。ほとんどの児童は初体験であった。講師陣は小刀の使い方等を実技を交えて詳しく指導した。グループ内の班長の役割や使う順序もよく理解させた。

●協力し合うよさを味わう

グループの人数より小刀の数が少ない。アルコールランプも班に1つである。時間内に全員が仕上げるためには協力し合わなければならない。「お先にどうぞ」「次は私よ」と声掛け合い、和やかに作業を進めていた。竹の素材から竹とんぼに変わっていくことは、グループで協力し合うことのよさを味わっていることでもある。

●指導者への信頼と感謝のまなざし

竹とんぼ教室は連続2時間をかける。制作に約1時間、飛ばして楽しむのに1時間を当てている。どの子も「先生、先生！」と指導者に語りかけてくる。その時うれしそう顔は自分の作品への誇りであろう。児童たちの表情に、指導者への信頼と感謝のまなざしが伺われる。



● ● ● 平成27年度松楠会支援事業の募集 ● ● ●

高校生以下の児童・生徒を対象にした青少年の健全育成事業、教育活動事業などに対する松楠会支援事業を下記の要領で募集します。

- 1 支援する事業は、松楠会の会員が企画・実施の中心になっているもので、1事業につきおおよそ30万円を上限とする。
- 2 提出書類 (1) 企画書 (2) 予算見積書 (3) その他参考資料等
- 3 応募締め切り 平成27年1月31日
- 4 提出先及び問い合わせ先 ... 〒760-8522 高松市幸町1-1 香川大学教育学部同窓会松楠会事務局
メールアドレス：syounan@ed.kagawa-u.ac.jp TEL：087-832-1414

なお、同一事業の採択は、4回目までとします。選考結果については2～3月中に通知します。対象となる児童・生徒に募集案内チラシ等を配布する際には、この事業が松楠会（香川大学教育学部同窓会）の支援を受けていることを明記し、そのチラシを企画書または、報告書に添付して提出してください。

	郵便番号	住 所・勤務校	担当者
高 松 支 部	761-0113	高松市屋島西町2469 高松市立屋島西小学校*	高木 一
丸 亀 支 部	763-0026	丸亀市六番丁12 丸亀市立城西小学校	森山 敬三*
坂 出 支 部	762-0031	坂出市文京町1-9-4 香川大学教育学部附属幼稚園	倉野 晴代*
大 川 支 部	769-2101	さぬき市志度727 さぬき市立志度小学校	多田 敬三
小 豆 支 部	761-4152	小豆郡土庄町黒岩729-1	三木 吉昭
木 田 支 部	761-0702	木田郡三木町平木710-1 三木町立平井小学校	山地 茂之*
香 川 支 部	761-1612	高松市塩江町安原上東365 高松市立塩江小学校	鎌田 章司
綾 歌 支 部	769-0102	高松市国分寺町国分14-6	岡内 尊重
仲・善 支 部	765-0012	善通寺市上吉田町78	小亀恵美子
三・観 支 部	768-0060	観音寺市観音寺町甲2558-1 観音寺市立観音寺小学校	三野 正
東 京 支 部	279-0022	浦安市今川4-12-28-1	菊池 健二
神奈川 支 部	253-0111	神奈川県高座郡寒川町一之宮3-38-8	宇條 建郎
愛 知 支 部	470-1167	愛知県豊明市栄町西大根99-24	古田三千年
大 阪 支 部	567-0884	大阪府茨木市新庄町6-9	信垣 綾子
兵 庫 支 部	651-2277	兵庫県神戸市西区美賀多台4-7-20	木岡 正雄
岡 山 支 部	709-0221	岡山県備前市吉永町金谷647-32	横山 茂樹

●平成25年度松楠会会計決算報告

●平成26年度松楠会会計予算

平成25年度 松楠会支援事業

- 竹細工工作教室（全5回）（仲善支部 香川 孝典、森江 照、香川 佳子）

平成25年度 学生支援事業

- 未来からの留学生（平成25年10月13日 香川大学幸町キャンパス）
- わくわくコンサート（平成26年2月9日 サンポートホール高松大ホール）

●平成25年度松楠会基金決算報告

●平成26年度松楠会基金予算

平成25年度 表彰者

- 坂井 聡
- 岡内 尊重
- 佐藤 明宏
- 森 真佐純

『自閉症スペクトラムなど発達障害がある人との
コミュニケーションのための10のコツ』出版
『香川の宇宙教育活動』出版
『単元を貫く言語活動』出版
世界物理教育学会（チェコ・プラハ）にて発表

平成25年度 助成者

- 坂井 聡

アイスランドへ（統合教育と地域での障害者支援等について調査）

松楠会基金の会員表彰制度を
ご存じですか？

本を出版されたり、発表会・展覧会の開催、競技会等で優秀な成績を挙げられたりした会員の方々を
表彰しております。該当者は、ぜひ事務局までお知らせ下さい。また、情報をお持ちの方もご一報を！



六十而耳順

—剣道部と教育学部生とのかかわり—

高松市総合教育センター 研修指導員 松井 保
(附属教育実践総合センター 客員教授)



私が香川大学に入学した昭和45年頃、教育学部体育館の北側はまだけっこう広いグラウンドになっていました。そして、その北詰に国語研究室を含む学生用の木造平屋の研究室棟がありました。また、剣道場は当時の経済学部南東端にあり、これまた木造平屋で風通しがよく、道場らしい趣のある建物でした。

そんな中で、私の教育学部生としての学生生活がスタートし、以来、学校教育と剣道にかかわる長い教員生活を送ることとなりました。38年間の教職生活を終えた翌年の平成25年に再び大学との新しいかわりが生まれ、客員教授として「教育実践集中講座」のお手伝いをする事となり、さらに、香川大学剣心会（現部員と卒業生による剣道部後援会組織）会長を拝命することとなりました。

昨年10月から11月にかけて実施された「教職実践演習」では、教育学部の教員はもちろんのこと、受講生のいる経済学部、農学部、医学部の先生方が一緒になって指導に当たっておられることに、まず感銘を受けました。ルーブリックが提示されている班活動や、自己課題を明確にした上での演習に、真摯に取り組む受講生の姿が印象に残った時間でもありました。

一昨年より、長い間遠ざかっていた剣道の稽古に、週1回のペースで取り組んでいます。20代から70代まで、初心者から八段の先生を含む剣友会での稽古は、私にとってほとんど初対面に近い方々との人間関係作りでもありましたし、母校である高校でのOB稽古会も、今の自分の力の無さと技術の衰えを思い知らされる時間でした。

こうした機会にこそ、「論語」中にある「六十而耳順」の教え通りに、講座においても、剣心会運営お手伝いにおいても、過去どちらかと言えないがしろにしがちであった、人の意見を広く素直に聞き入れ



ての言動を心したいものだと思っています。教職を目指す学生諸子には、授業を通して「見ようとならないものは見えない」ことの意味を伝えたいと考えていますし、他者の存在に気づき、他者を尊重することに結び付く「言語活動の在り方」を探究・実践して欲しいと願っています。また、剣道での先輩・後輩の充実した交流の継続、発展の一助となれば、との念を強くしていますし、そんな中で、竹刀で打ち、打たれることを通しての対話を、できる限り楽しみたいとも思っている次第です。

松楠会ホームページ 松楠会

検索

<http://www.ed.kagawa-u.ac.jp/~syounankai/>

編集後記 ■ ■ ■

- 原稿をお寄せいただいた皆様のおかげで、今年も会報を発行できることに大変感謝しております。
- 今回の会報51号には、大学の施設面の改築や教育学部の改革についても写真や図等で分かりやすく見ていただけるようにと思いをめぐらせながら作成いたしました。今後も、松楠会並びに教育学部の状況や活動を見守りご支援いただくために、松楠会と教育学部の活動の情報を多彩にお届けしていきたいと思ひます。また、松楠会HPにも新しい情報を掲載しておりますので是非、ご覧いただけますようお願いいたします。

松楠会報

第51号

発行日 平成26年7月20日

発行人 岩島 卓男

佐藤 明宏

編集 植田 和也

片岡 元子

稗田 美嘉

香川大学教育学部同窓会 松楠会